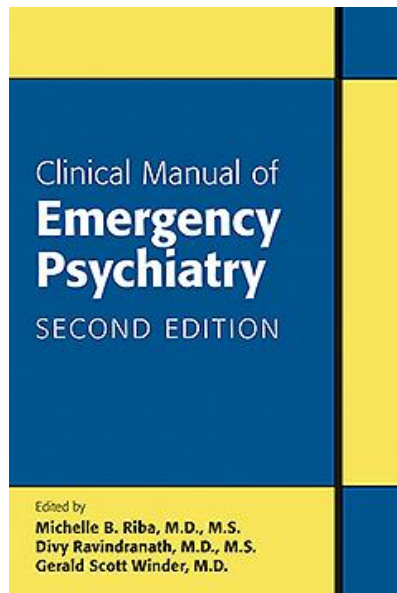


Olfactory Function in Mild Cognitive Impairment and Alzheimer's Disease: An Investigation Using Psychophysical and Electrophysiological Techniques

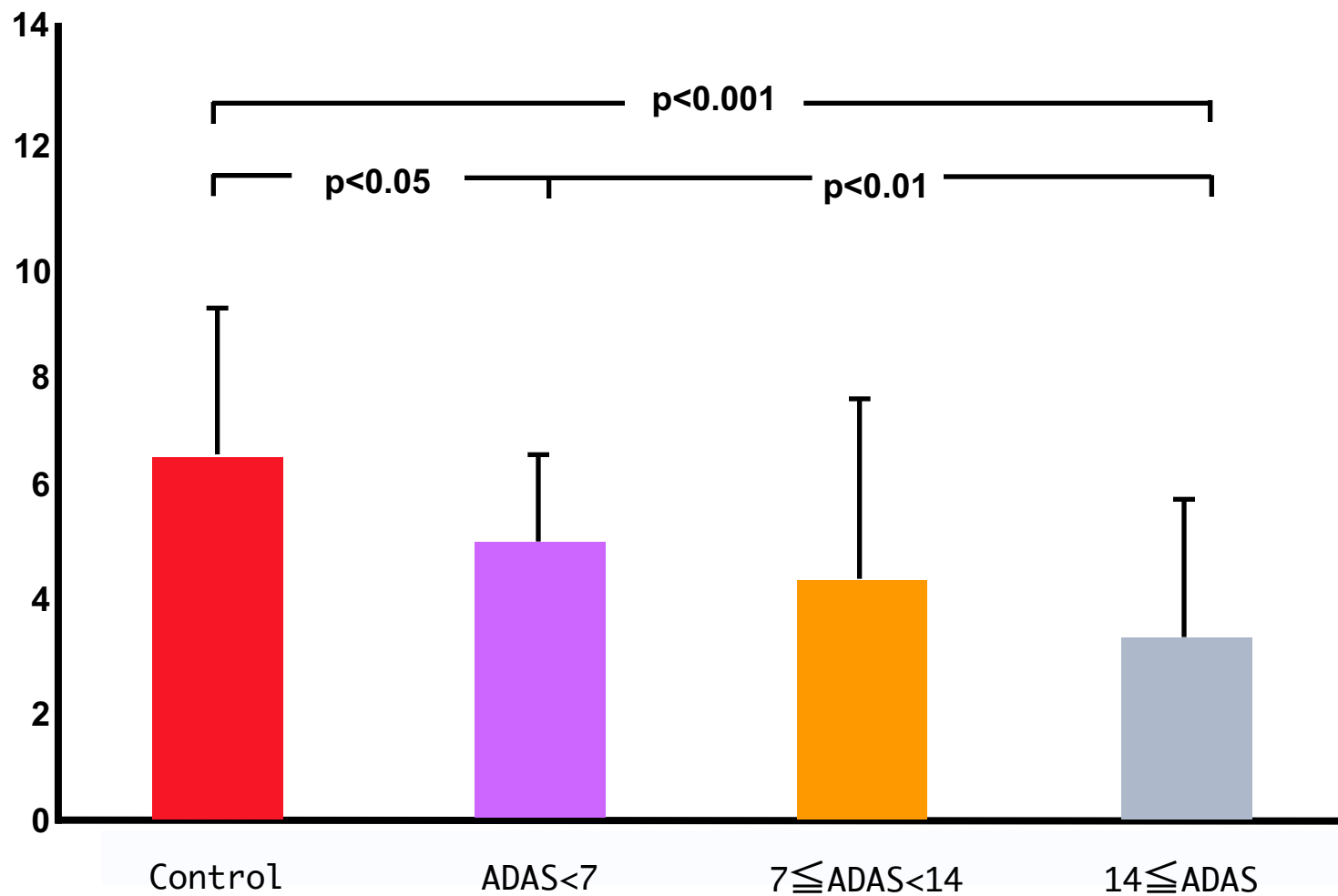
Jürgen M. Peters, M.D., Thomas Hummel, M.D., Ph.D., Tilman Kratzsch, M.D., Jörn Lötsch, M.D., Ph.D., Carsten Skarke, M.D., and Lutz Frölich, M.D., Ph.D.



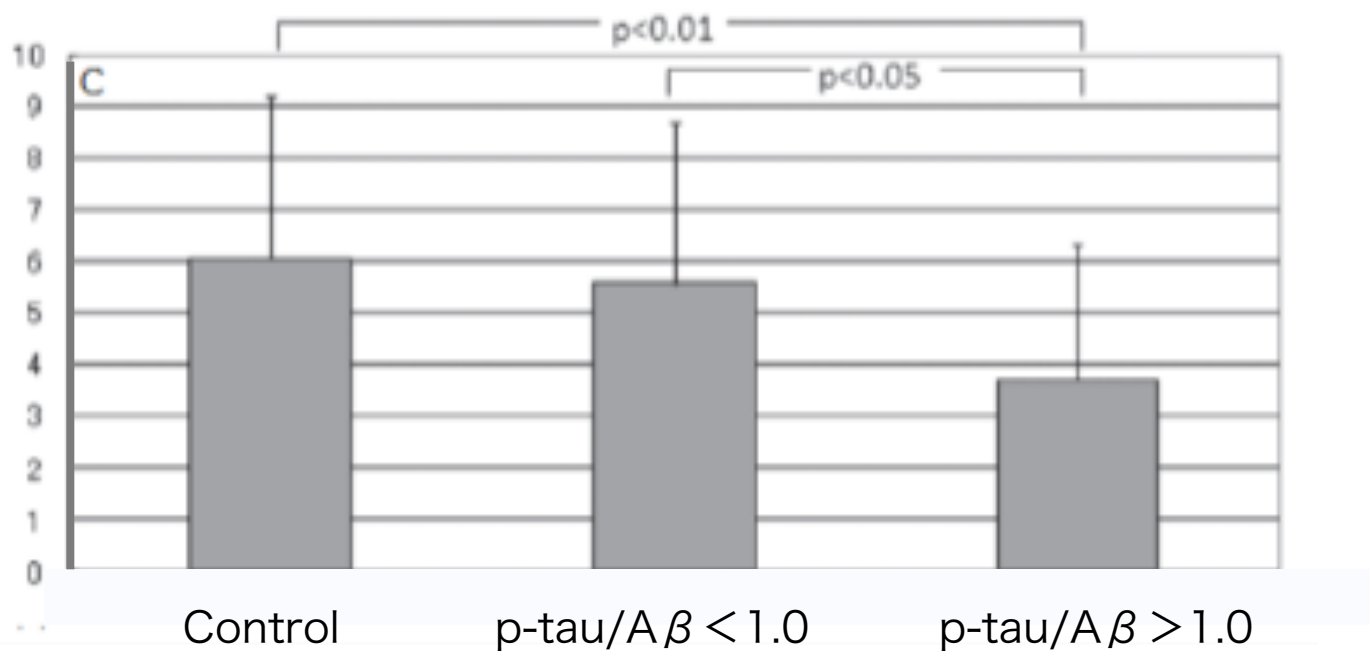
OBJECTIVE: To clarify the olfactory deficit hypothesis regarding Alzheimer's disease, the authors compared olfactory function in patients with Alzheimer's disease, subjects with mild cognitive impairment, and healthy comparison subjects. **METHOD:** Olfactory function of 14 patients with mild Alzheimer's disease, eight subjects with mild cognitive impairment, and eight healthy age-matched comparison subjects was assessed with both psychophysical tests and olfactory event-related potentials. **RESULTS:** Group comparison of the psychophysical test results showed a significant main effect of diagnosis for odor detection threshold, odor discrimination, and odor identification. These results correlated only partially with those obtained from olfactory event-related potentials. Seven Alzheimer's disease patients and four with mild cognitive impairment showed no olfactory event-related potentials, suggesting hyposmia, while all comparison subjects had clearly discernible responses. Patients with Alzheimer's disease were significantly more likely to be nonresponders. In the four Alzheimer's disease patients and four subjects with mild cognitive impairment who had clear electrophysiological responses, amplitudes and latencies of the various event-related potential components were normal, i.e., similar to those of the comparison subjects, although 12 of the 14 Alzheimer's disease patients and seven of the eight mildly impaired subjects were classified as functionally anosmic with psychophysical methods. **CONCLUSIONS:** The electrophysiological results confirm prior findings of olfactory dysfunction in patients with Alzheimer's disease and preclinical Alzheimer's disease. Investigations of larger study groups with detailed cognitive examination and postmortem diagnosis may resolve the intriguing possibility of early diagnosis and discrimination of Alzheimer's disease subtypes through chemosensory event-related potentials in addition to existing biomarkers.

「アルツハイマー病は、記憶が障害される前に嗅覚が障害される」 !!
アルツハイマー病14人中12人に嗅覚障害 !!!

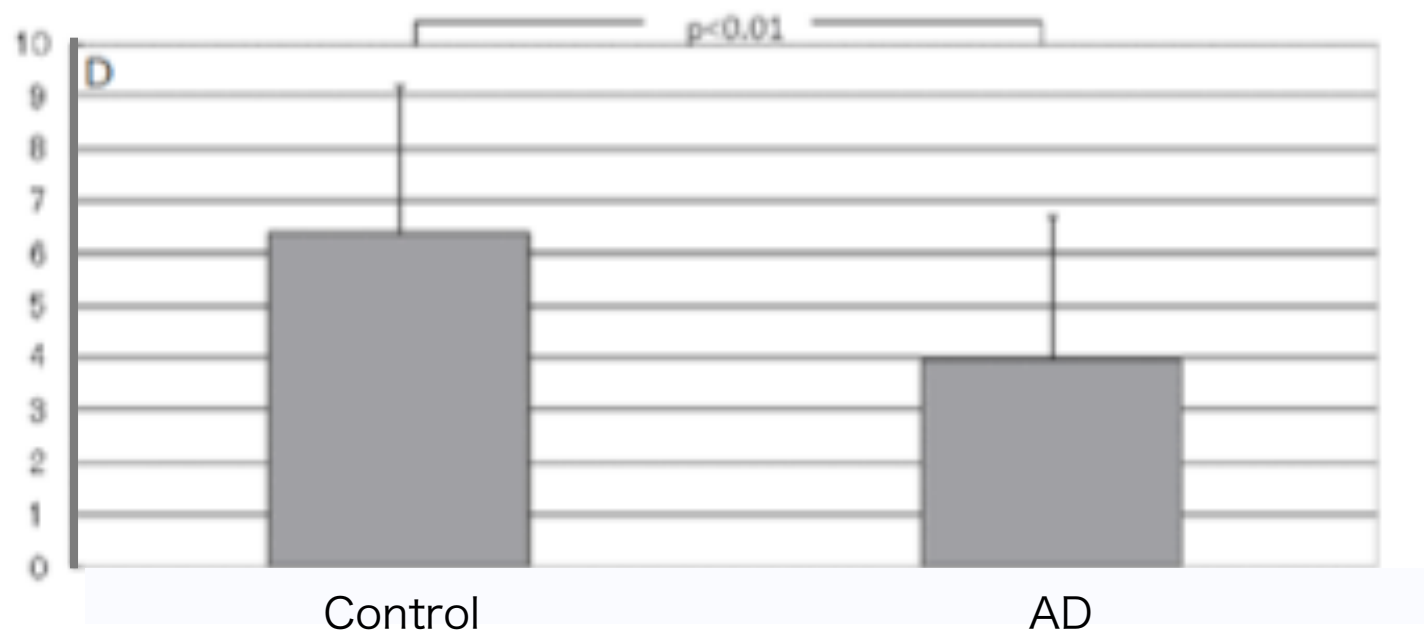
認知機能障害の重症度と嗅覚障害の相関



ADASによる認知機能障害の重症度と嗅覚障害の相関



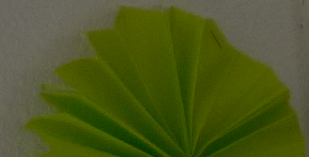
アルツハイマー型認知症とコントロールでの嗅覚障害の重症度の比較



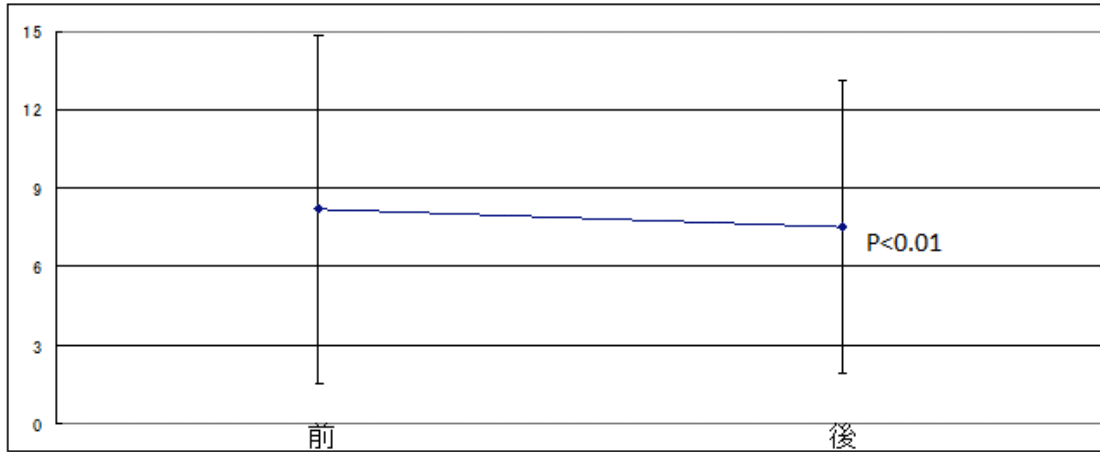
ヒューマンライフケア横浜での実証試験



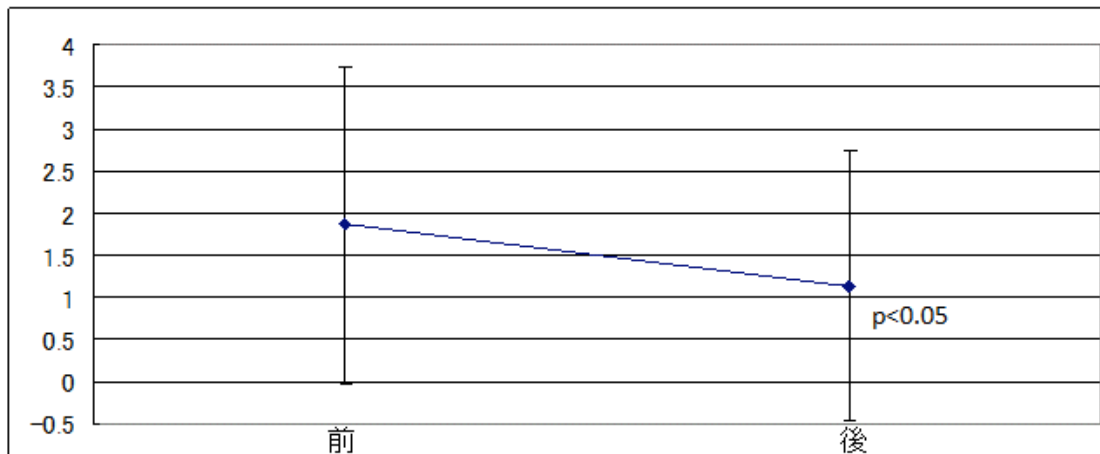




匂いによる精神症状の改善作用

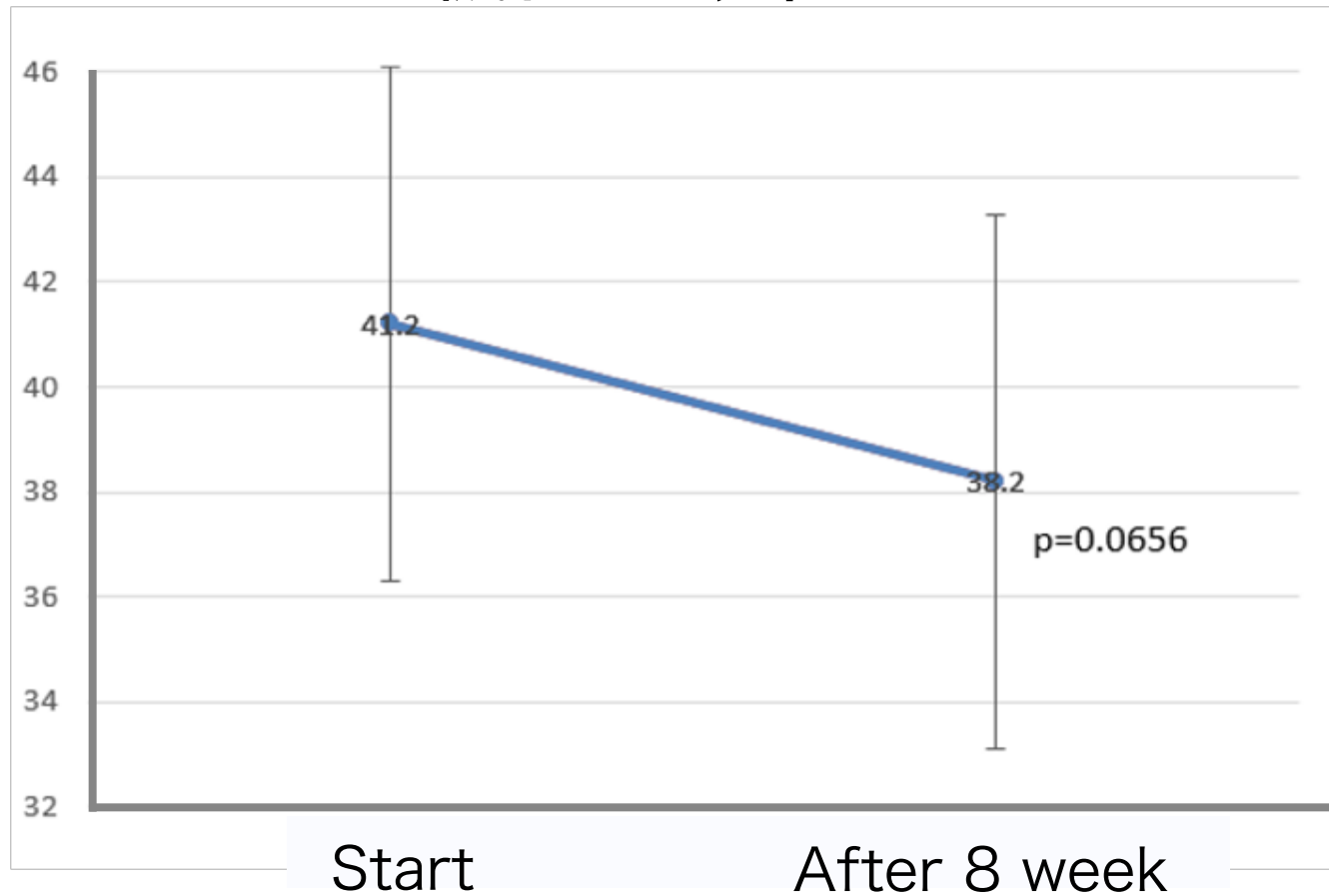


匂いによる不眠状態の改善作用



レモングラスのセルエキストラクト

による知的機能の改善



最新最強 脳活ドリル 脳年齢がぐんぐん若返る

記憶力が10歳若返る!

安心

2015 10

大ター
特ポス
付き

3秒!これだけ体操

慢性腰痛、ギックリ腰の痛みが消えた

テレビで大反響 腰痛の原因は脳にあった!

- 直感力を鍛える「金額が多いのはどっち?」
- 集中力・注意力を鍛える「違う?同じ?探し」
- 言語力・創造力を鍛える「くるくる単語」
- 同時処理能力を鍛える「並び替え語句探し」
- 空間認知能力を鍛える「ブロック速数え」
- ワーキングメモリを鍛える「代入記憶計算」
- 記憶力・想起力を鍛える「イラスト記憶」
- 論理的思考・推測力を鍛える「理論ハズル」
- 専門医が推奨!判断力を鍛える「迷路脳トレ」
- 新聞紙に自画像を描く「クレヨン画脳トレ」

物忘れ 名前忘れ 認知症を撃退「アレコレソレ」

脳活ドリル



安心 (マキノ出版)
塩田、2015年10月号



レモングラスの香りで認知症患者のやる気が高まって活動的になり食欲も増した

医療ジャーナリスト 加賀田節子

に行いました。
レモングラスの香りをかいてもらう前とかいだ後に、運動状況や食事状況、お話の状況など介護者が客観的に調べる、GB Sスケール(老年期認知症行動評価尺度)を用いて、60項目をチェックします。

レモングラスの香りは、どのようにかいてもらったのですか?

山口 入所者の皆さんは、昼間の時間は、個室から出てほとんど食堂に集まります。レモングラスは交感神経を刺激するというので、午前中に2時間噴霧しました。

島里 食堂は、廊下とつながるドアのない開放的な造りなので、ディフューザー(霧を拡散させる機械)を扇風機の近くに5台設置しました。初めはおいに気分く人もいましたが、だんだん慣れるようです。レモングラスは、優しい香りなので、好き嫌いがいいこともよかったです。

レモングラスの香りが、物志の改善や集中力の強化、やる気高めめるなど認知症の予防・改善に役立つという研究が注目されています。

神奈川県横浜市にある介護老人保健施設ヒューマンライフケア横浜では、レモングラスのアロマセラピーを導入し、認知症の改善に役立てています。施設長の山口公美さんと看護師で療養部長の島里慶子さんに、その経緯と効果を伺いました。

認知症27名に香り刺激を試した

レモングラスのアロマセラピーは、いつごろからどんな



(左から) 島里慶子療養部長と山口公美施設長

っかけて導入されたのですか?
山口 昨年、塩田清二教授の研究結果を知り、実際に認知症の改善に役立つかどうかを、まず検討しようと考えました。
島里 アロマセラピーは、世界的には歴史が長く、嗅覚を刺激してさまざまな効果効能があるといわれています。しかし、オ

イルを使うとにおいが壁に吸着されてしまいます。多くの人が出入りする施設では、においの好き嫌いが分かります。ところが、「レモングラスの香り」は、水溶性なので壁に吸着されないメリットがあります。

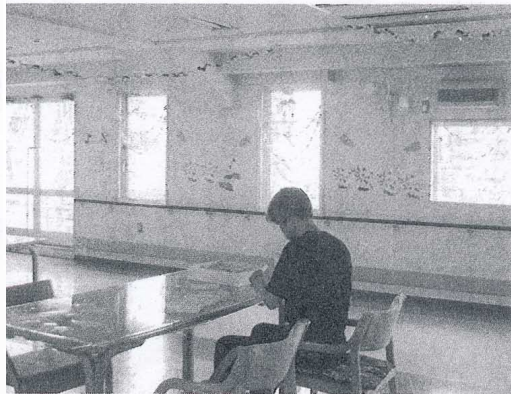
山口 認知症の治療法は、投薬が一般的です。当施設では基本的に使用しませんが、副作用も出やすいなど注意が必要です。その点、レモングラスを用いたアロマセラピーなら副作用もないので、効果があれば施設に導入したいと考えました。

島里 まずは、効果を検討するために、認知症の入所者27名(男性10名、女性17名)を対象

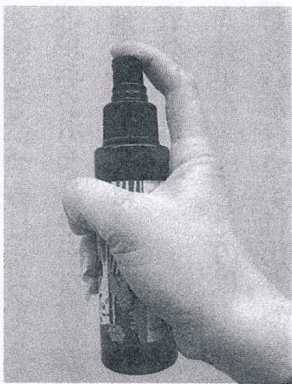
やる気が高まり
活動的になった

— 検討結果はいかがでしたか？

島里 レモンガラスの香りを毎日かいでもらい8週間後、12週



エアコンの横から香ってくる



手軽なスプレータイプもある

活動的になりました。それについて食欲も増しました。こうして科学的根拠が取れたので、レモンガラスのアロマセラピーを導入することに決定しました。導入してから、噴霧を止めた時期が数週間ありました。すると、行動的になった人が、またウトウトし始めたのです。これでレモンガラスの香りの効果を確信しました。

間後、16週間後のGBSSスケールを調べました。その結果、機嫌と排泄の項目に改善傾向が見られました。さらに、アルツハイマー型認知症のみで統計をとったところ、悪化している人はいませんでした。また、知的項目については改善傾向があったのです。

山口 認知症が日々進行していかないだけでもすごいことです。知的項目とは、具体的に集中力ややる気、行動です。

島里 認知症の人は、気力が低下してウトウトとまどろんでいることが多いのですが、レモンガラスの効果でやる気が高まり、

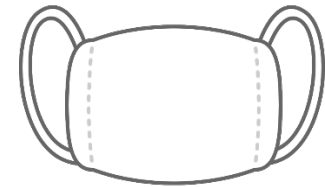
山口 今後は、グループホームなど小さな施設などへの導入も積極的に進めていきたいと考えています。

島里 デイケアなどに通所する方は、施設だけの使用では改善が難しいので、ご家庭でのアロマセラピーも積極的にお試しになるのもよいと思います。

認知症の予防や改善ができれば、介護するご家族の負担も減ります。今回、介護度の高い人にも改善傾向がありました。介護度の低いときからレモンガラスの香りを取り入れれば、進行を遅くすることが期待できるのではないのでしょうか。

認知症予防・改善の脳活マスク

～香りのDr.塩田清二監修～



忘れないで
1日2時間マスク®

原料 レモングラス

セルエキストラクト®



匂いのトレーナー

化学香料は使用していません。
レモングラス

特徴

- レモングラスのセルエキストラクト使用
- いつでもどこでも使用できる
- 効率よく匂いを嗅げる設計
- 両面使用可能
- 1日2時間の使用



lemongrass
FLOWERS & HERBS
COLLECTION

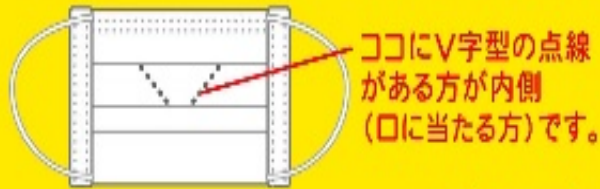
VECTOR EPS10
ALL IN LAYERS

認知症予防・改善の脳活マスク

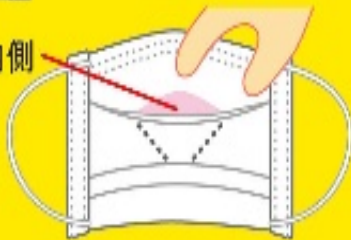
～ 使用方法 ～

使用方法

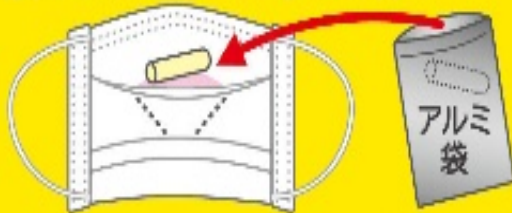
① マスクの内側を確認してください。



② 点線(V字型)の内側がポケットになっていますので、確かめてください。



③ アルミの袋からスティックをだし、ポケットに入れてください。(横にして入れるのを勧めます)



※ スティックの位置は、鼻の下にくるようにしてください。ポケットの中で調節できます。

1日2時間忘れずに

お散歩・家事・テレビを見ながら
いつでもどこでも1日2時間
毎日の使用をお勧めします



認知症予防・改善の脳活マスク

【実験方法】

アルツハイマー型認知症軽度から中度の患者
680名の被験者について

A. マスク未装着時

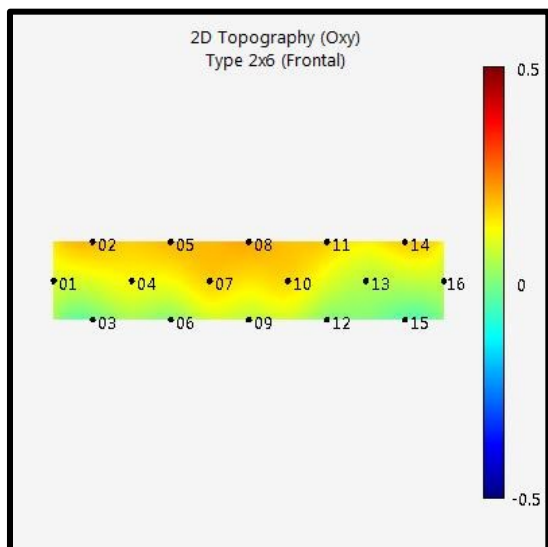
B. 1日2時間マスク 30分間装着時

脳血流量の変化をNIRS脳血流計測装置で測定した。



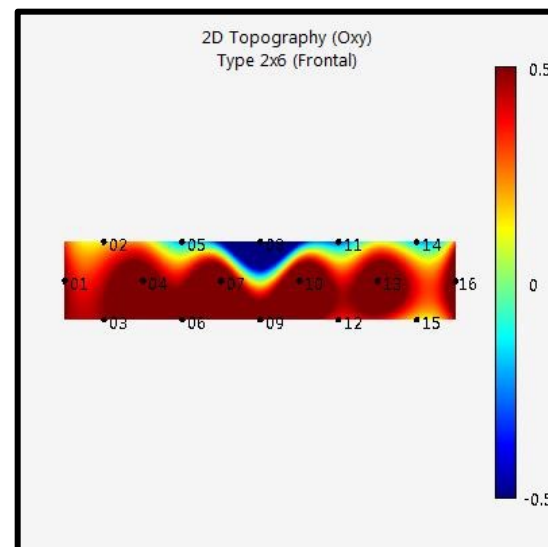
【実験結果 1:レモンガラスマスク】

マスク未装着



軽度から中度の
アルツハイマー
患者で実験。
マスク装着後5分
以内に脳血流の
活性が確認できた。

レモンガラスマスク



賦活化

被験者**680名の内、498名**はレモンガラスマスク装着時に
脳神経活動の賦活化が観察された